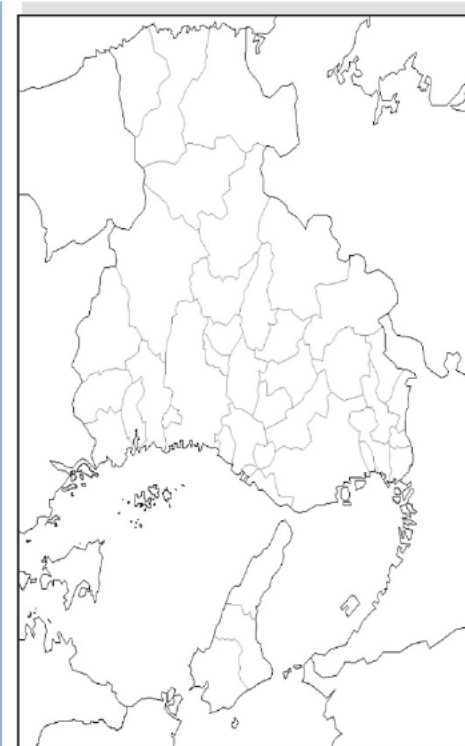


伝える・活かす・備える
～可視化サイト活用検討
@ひょうご編～

兵庫県 県土整備部
まちづくり局 都市政策課



兵庫県マスコット はばタン

1. 現況調査（ヒアリング）

今回の研修を受けて日頃から都市計画業務を熟知している所管課（兵庫県都市計画課）に活用事例についてヒアリング

G I S を活用した調査は実施済み。
（都市計画基礎調査など）

現在マスタープランの見直しを行っているが、コンサルも入っていて独自に活用しているため、あまり活用の余地がないのではないか。

それよりも、これまでに活用されていない分野における活用事例を考えた方が広がりがあるのではないか。



2. 活用事例掘り起こしに当たって、、、

原点回帰：そもそもGISとは??

地理情報システム（GIS：Geographic Information System）は、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術である。

平成7年1月の阪神・淡路大震災の反省等をきっかけに、政府において、GISに関する本格的な取組が始まった。その中核となる取組が、国土空間データ基盤の整備である。
【国土地理院HPより】

原点は、阪神・淡路大震災！

1 阪神・淡路大震災からの復興 (1) 被害の概要



地震の規模

【日時】 1995年1月17日 午前5時46分
【震源】 淡路島北部 深さ約16キロ
【規模】 M7.3

被害の規模

死者・行方不明者数 6,434人・3人
直接被害額 約10兆円（県総生産の約50%）
全半壊家屋 460,357世帯

震災の特徴

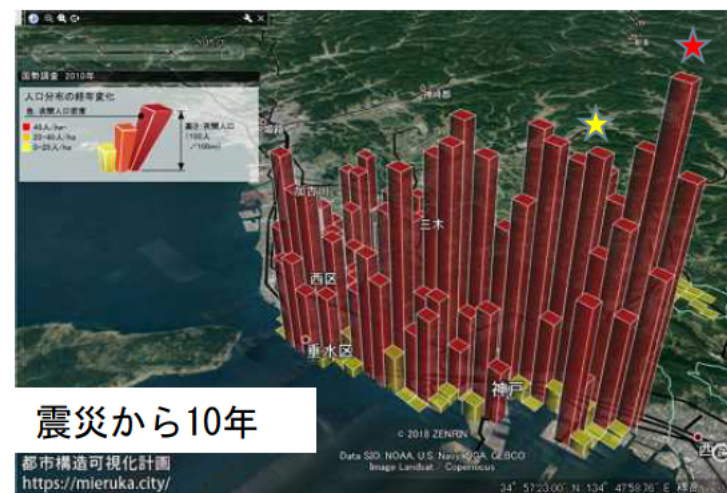
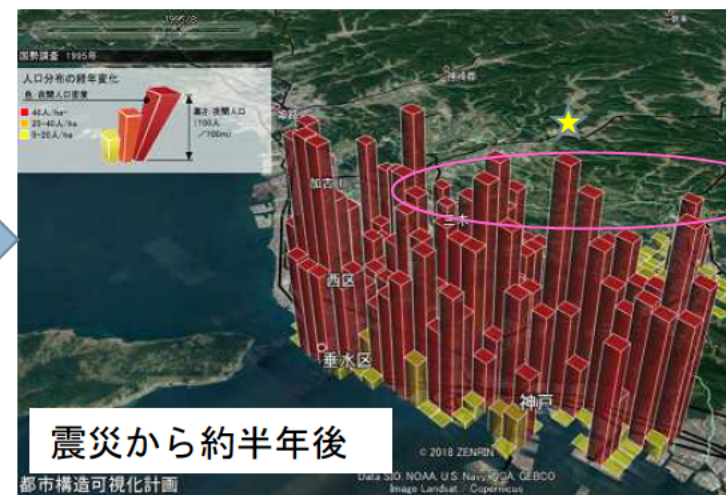
- ・都市直下型地震
- ・断層に沿った帯状の激甚被害（東西約30km、南北約2～3km）
- ・都市機能が集積した人口集中地域が被災（被災地人口 約360万人）
- ・高齢社会下で発生（当初仮設住宅入居者の30.5%が高齢者）



2

3. 上記を踏まえて、活用事例

阪神・淡路大震災の影響評価【夜間人口(人/ha)の経年劣化】



- ・☆の人口密度は半減(229→124)
- ・10年後のピークは東寄りにシフト

大規模自然災害
の与える影響は
大きい！！



4. 自由な発想で！！

遅ればせながら自己紹介：事務屋かつ都市計画の素人

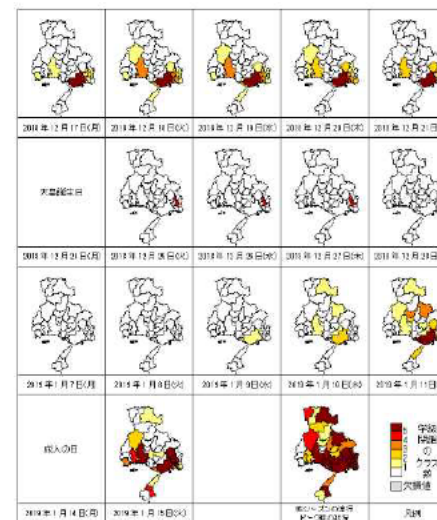
しかしながら、いろいろな分野の職場を経験！

No.	期間	所属	概要
1	H13～H14	復興企画課	人と防災未来センター整備
2	H15～H18	中播磨県民局・商工	産業振興(新規事業補助)
3	H19～H21	中播磨県民局・総務	庁舎管理・福利厚生
4	H21～H24	疾病対策課	新型インフルエンザ対応
5	H25～H26	空港政策課	関西全体の航空需要拡大、伊丹空港調整
6	H27～H29	県立病院	放射線の一つである粒子線を使ったがん治療
7	H30～	都市政策課	まちづくり施策の総合的な推進

【活用事例素案】

- ・復興企画：震災復興の状況(前述)
- ・感染症対策：インフルエンザ流行マップ
- ・空港政策：空港を活かしたまちづくり
- ・粒子線治療：全国がん統計調査
- ・都市政策：交通機関バリアフリーの状況

市町別学級閉鎖状況マップ(全学校一括)



市町別学級閉鎖状況
マップ(全学校一括)
兵庫県インフルエンザ情報センターHPより

- ・情報の更新頻度
- ・個人情報取り扱い
- ・情報収集元のコンセンサスが課題！

5. さらなる活用を求めて、、、

本県におけるGIS活用について情報政策所管課(情報企画課)にヒアリング

- ・ 先進事例として、治山分野でのモデル事業を全県展開するべくサポート

【先進事例】
～県内の森林地系が丸見え～
グラウンドデータの整備・活用（兵庫県治山課）



H29: 一部市町分を先行実施
H30: 全県域分を実施



- ・ 庁内横断的にデータを共有し、共通のGISソフトを庁内で容易に利用できる環境構築を検討中

6. まとめ

・ 伝える・活かす・備える…引き続き活用事例を探求！

○組織のミッション
→「参画と協働のプラットフォーム」

○兵庫県のビジョン
→「県民主役・地域主導」のために、、、

○県職員として
→震災の経験と教訓を発信し、
地域固有の多様性を伸ばすた
めには、情報共有、ヨコの連
携、柔軟な発想が重要

都市構造可視化ツールを切
り口に、引き続き活用事例
の探求に努めていきます



おそまつさまでした

兵庫県 県土整備部
まちづくり局 都市政策課